

～「ここすき」学びの記録～ 「人と関わる力」の育ち

*Sさんは、牛乳パック積木のトンネルに車を通したり、魅力的な遊びを展開していました。それを見て、「私も！」と思ったのでしょう、お友だちがやってきて、その積木を自分の好きなように並べ替えました。さて、Sさんは、どうするでしょうか？



1) 「1つなら貸してあげる。」

2) 「でも、これはボクの。」

3) 「こっちも使っているよ！」

1歳児は、まさに「自分づくり」の真っ最中です。

その「自分づくり」の大事な柱は、「自分で！」「自分の！」「自分も！」という自己主張をしっかりと出せるようになること。

大人であれば、「言葉」で自分をアピールすることもできますが、1歳児の場合、「モノ」や「場所」の確保が「自分」という存在を周囲へ向けて主張することになります。

だから、1歳児はふつう「モノ」が貸せません。「自分のモノを渡す」とは、今まさにつくろうとしている「自分」を相手に明け渡すことだからです。

でも、そうした1歳児の姿は、子育てがうまくいっている証拠であり、その子の「自分づくり」が順調に進んでいる証拠なのです。

でも、この場面で、Sさんは最初は確保した積木を、友だちの顔を見ながら渡してみました。すると、相手も、周囲の人も、とても喜んでくれたのです。

「あれ？ 僕が積木を渡すとみんながよるこんでくれるぞ。もう一度やってみようかな・・・」。それを試しているうちに、ついには全部の積木を相手に渡してしまったのです。

このエピソードを通して、Sさんのなかには「自分にはまわりの人たちを喜ばせる力があるんだ！」という自己肯定感と、「相手が喜ぶと自分もうれしい」という共感の力が確実に育ったことでしょう。

そして、そうした自己肯定感や共感力をすくすく伸ばしていけるのも、自分がうれしいことをいつも一緒に喜んでくれるお母さまの存在があるからです。